研究計画概要（オプトアウト）

当院では下記の研究を実施する予定です。本研究は倫理委員会の承認および病院長の許可後に開始します。対象となる方で研究内容について詳しく知りたい場合、または研究への情報利用を希望されない場合は下記までご連絡ください。同意の有無によって診療上の不利益はありません。

【研究課題】
「のう KNOW」を活用した自治体と医療機関の連携による認知症早期診断・対策の検討

研究代表者；　髙田智也（たかだ脳神経外科・内科クリニック　院長）
共同研究者；　髙田麻耶（たかだ脳神経外科・内科クリニック　副院長）
　　渡邉真哉（水戸協同病院／筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター特任准教授）
　　鯨岡裕司（筑波記念病院つくばトータルヘルスプラザ　医員）

【研究計画】
背景と目的；
厚労省の推計によると我が国の 65 歳以上の認知症または軽度認知障害の有病率は 27.8%であるが、そのうち医療機関への受診率は 7%と低い。
たかだ脳神経外科・内科クリニックが位置する笠間市では、認知症啓発イベント等において地域包括支援センターがデジタルツール「のう KNOW」を用いた脳の健康度測定を実施し、基準値以下で相談を希望した者に保健師が面談を行い、連携シートを用いて医療機関への受診調整を行っている。医療機関では通常診療として評価・診断を行い、対象者の同意の範囲内で自治体と必要な情報を共有している。地域住民に身近な自治体事業において脳の健康状態を確認し、必要時に保健師の面談を介して希望者が医療機関への受診につながる仕組みは、早期や適切な診断・治療を促進する可能性がある。
本研究ではこの連携過程を体系的に記述し、脳の健康度測定から面談、受診および診断までの接続状況を明らかにすることで地域における認知症の早期発見や医療体制を改善することを目的とする。

方法；　令和 6〜7 年度に笠間市の認知症啓発イベントで「のう KNOW」を受検した住民のうち、基準値以下で保健師面談および医療機関連携の対象となった方について、自治体事業記録と診療録を用いて後ろ向きに解析する。

評価項目；　医療機関受診率、主観的認知機能低下・軽度認知障害・認知症の診断割合、

評価期間中の経過観察状況・治療経過等を評価する。

【研究期間】
倫理委員会承認日から令和 9 年 3 月 31 日

【対象】
令和 6〜7 年度に笠間市認知症啓発イベントで「のう KNOW」を受検し、保健師面談および医療機関連携の対象となった方。

【研究に利用する情報】
のう KNOW 測定結果、保健師面談記録、紹介連携票、診療録、診断名、年齢、性別、画像検査結果、治療経過等の既存情報。

【倫理的事項】
個人情報は研究 ID に置換して解析し、個人を特定できる情報は研究データから除外します。研究成果は学会・論文等で公表することがありますが、個人が特定されることはありません。研究への情報利用を希望されない場合は研究責任者までお申し出ください。

【問い合わせ先】
研究責任者：髙田 智也
たかだ脳神経外科・内科クリニック
電話：0296-71-8808

水戸協同病院／筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター研究代表
脳神経外科　特任准教授　渡邉真哉
電話：029-231-2371